

追悼 滝田謙讓さん

滝田謙讓先生の訃報に際して

神田 房行¹

滝田謙讓先生の訃報を先日知りました。

滝田先生とは同じ釧路在住の植物研究者としてお付き合いをいただきました。私が北海道教育大学釧路校で教員として学生の教育や研究をしていた際、研究室を訪ねていただき先生の私家版の『釧路植物誌』（1980年）をいただいたのが最初だったと思います。

滝田先生は釧路市内の中学校の数学の先生でしたが在野の研究者として道東の植物を研究しておられました。昨年NHKの朝ドラでモデルとなった江戸時代から昭和にかけて日本の植物学の基礎を築いた牧野富太郎のような人だと思っています。その後先生は『東北海道の植物』（1987年）や『北海道植物図譜』（2001年）を出版されて、まさに北海道の牧野富太郎と言っても過言ではない北海道における植物研究の第一人者になられました。私も湿原の植物研究などで先生の著作を活用させていただきました。北海道教育大学釧路校においても非常勤講師として学生の指導に当



たっていただきました。また湿原のミズゴケをまとめた論文「北海道におけるミズゴケの分布及びその変異について」（1999年）を北海道大学植物園の研究紀要に発表され、日本の湿原研究にも貢献されました。

先生とは道東の湿原や山野のフィールドワークとして多くの場所に同行していただきました。写真は厚岸の湿原を訪れた際の在りし日の滝田先生の姿です。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

滝田謙讓先生の思い出

高嶋八千代²

2001年に完成された『北海道植物図譜』のための現地調査に滝田先生が取り組んでおられたころ、道東での調査に同行しました。

先生は山岳地調査以外はおひとりで動くことが多かったようですが、ある時湿地で方向を失い、一晩さまよったそうです。大変心配された奥様が、それ以降は単独行動をしないよう約束されたと言いました。現代のようにGPSで自分の位置を正確に把握できない時代のことでした。

現地調査については、どこに何をいつ確認に行くか行動計画を立ててあったようです。しかしその日程に対応できる人は簡単に見つかるものではなかったようで、当時時間的に多少ゆとりのあった私が同行する役を担う一人となりました。

中学校の数学の先生だった夏休み、お子さんの宿題に協力する中で、身の回りにある植物について関心を深めていったとお聞きました。そのため、ご自身では植物の専門家ではないとおっしゃることもありました。しかしわからないことに丹念に向き合い、文献を入手し、納得いくまで調べ、イネ科などについての質問など分かりにくいものでも丁寧に教えてくださる、植物について関心を持つ者にとってはまぎれもなく先生でした。

現地調査では、目的に向かってまっしぐらなので、ついていくのが大変でしたが、希少な種や景観をまぢかで見える機会をいただきました。塩湿地や湿地に入るときの心構えを学ぶ機会ともなりました。

釧路市立博物館が鶴ヶ岱から現在の場所である春湖台に移った後、冬季に標本を各自持ち寄って滝田先生を囲んで同定会をしたことがありました。学ぶことの多い会でした。道東各地の野生植物が話題になるなかで参加者のなかから、

「各自治体ごとの植物相をまとめたいね」、という話を持ち上がりました。調査計画などをたて少し動き始めましたが、残念なことに中途半端なままとなりました。

立ち上げた北海道野生植物研究会の活動は、規模を縮小して道東野生植物調査会として細々と調べごとを続けてい

ます。当時調べかけた分布地情報などは引き継がれていくように努力をしたいと思います。

先生、長きにわたる植物調査行、お疲れ様でした。安らかに休んでください。合掌

追悼：滝田謙讓さん

高橋 英樹³

滝田謙讓さんにはさまざまな折に助けてもらいましたが、関係が特に密だったのは1990年代後半から2000年代前半でした。

滝田さんの名著『北海道植物図譜』（2001）のあとがきに「北大総合博物館高橋英樹教授には松山地方と日高地方の案内をして頂きました」とあります。最初に松山地方と日高地方での出来事を記します。

何がきっかけだったかは忘れましたが、私は1990年代に北海道教育大函館校の長谷 昭先生に頼まれて集中講義をやっていた時期があり、教員経験のある滝田さんに、学生の野外実習を手伝ってもらったりしていたのです。2000年には学生たちとともにシダの佐藤利幸さんや滝田さんにも共著者に入ってもらい、論文「北海道西南部乙部町の被子植物相－生育環境による違いと開花・結実時期－」を出したりもしました。

同様に、1994～1999年に私が日高地方静内町の北大農学部附属牧場のフロラ調査をやっていた折、滝田さんにも調査に加わってもらいました。この時の成果は2001年に「北海道大学農学部附属牧場の維管束植物相」として発表しました。共著者に滝田さんの名前はないのですが特に同定で

は多くの助言を頂きました。

松山地方・日高地方以外で思い出すのは、Miyabea第4号です。1991～1999年にかけて、北大植物園から植物画で北海道フロラを紹介するMiyabeaという雑誌を出版したことがありました。この第4号（1999）をミズゴケの特集として、滝田さんに寄稿してもらったのです。北海道産ミズゴケ属の線画や顕微鏡写真、同定のための検索表、北海道での分布図を含む網羅的な力作でした。北海道の維管束植物を調べながら、ミズゴケ属の研究まで成し遂げたのですから、すさまじい集中力・頑強な体力には敬服するしかありません。

滝田さんにも共著者として入ってもらった論文としては、『北海道の湿原』（2002）中にある「別寒辺牛湿原とその周辺地域のフロラと絶滅危惧植物の現状」があります。地元で滝田さんと高嶋八千代さんの助けによりまとめたもので、予報的な別寒辺牛湿原のフロラリストを作成して釧路湿原との違いを明らかにし、絶滅危惧植物の現状を解説しました。

振り返ってみると、2001年の『北海道植物図譜』出版の前後に、何と多くの事を滝田さんに頼み助けてもらったのか。「あの頃はえらい目にあったよ」という70才前後だった滝田さんのほやきも聞こえてくる、私にとっては最も濃密な調査研究をしていた頃の思い出です。

滝田謙讓さんの標本資料について

加藤ゆき恵⁴

釧路市立博物館館報432号（2023年9月発行）でも紹介しましたが、滝田謙讓さんが採集された約1500点の維管束植物標本、約1200点の蘚苔類（コケ植物）標本が当館の植物収蔵庫に納められています。蘚苔類標本は、昨年ご家族から寄贈いただいた新規収蔵標本を含みます。

この度、全ての蘚苔類標本のデータを標本目録にまとめ

ました。釧路管内のものを中心に、知床や大雪山系で採集された標本も多くあります。PDF版を博物館ウェブサイトで公開しますので、是非ご活用ください。

